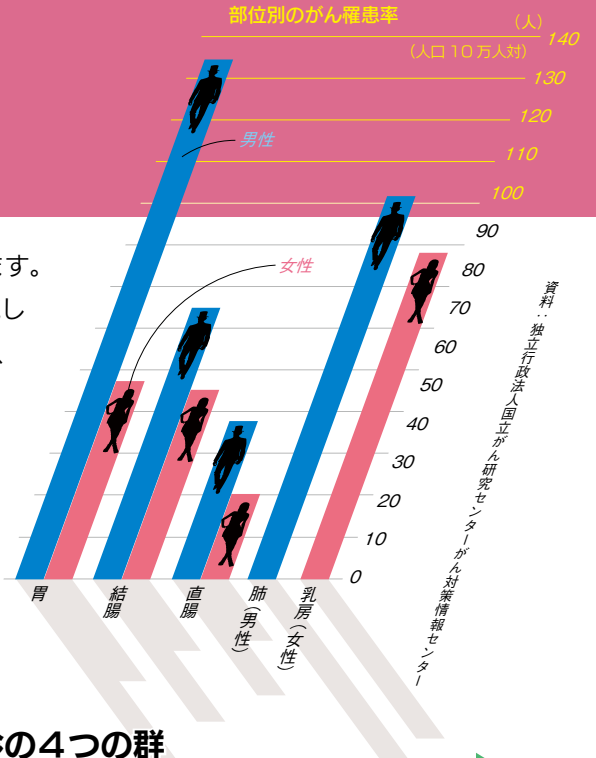


# ピロリ菌

胃がん罹患率は男性で1位、女性では乳がんに次ぐ2位となっています。胃がんの早期発見・早期治療には検診が有効ですが一方で、従来より実施している胃がん検診（胃X線検査や胃内視鏡検査）は食事制限の煩わしさや、検査は苦しいというイメージから当健保内での受診率は10～20%に留まっています。

そこで、多くの社員のみなさんに、検査の負担を軽減した形で、まずは胃がんリスクのスクリーニング検査を受診いただき、その結果、必要な方にはより積極的に胃がん検診を受けていただくことを目的に胃がんリスク検診（ABC検診）を導入します。



## ABC検診とは？

血液検査による胃がんリスクスクリーニングのことです。胃がんそのものを見つけ出す検査ではありません。胃がんにはヘリコバクター・ピロリ菌の感染とそれに伴う胃粘膜の萎縮が強く関与しているものがあることがわかっています。もし、ハイリスクグループの診断であれば、より積極的に胃内視鏡検査を受けていただくことが必要と判断できます。

ただし以下に該当する方は結果が正しくない場合がありますので、ご自身の主治医へご相談ください。

一部胃薬を服用中の方

胃切除後の方

過去に除菌治療をした方

## ● ABC検診の4つの群

危険率が高まる〈萎縮が進む〉

	A群	B群	C群	D群
ピロリ菌	—	+	+	—
ペプシノゲン値	—	—	+	+
胃粘膜の状態	正常	軽度萎縮 ピロリ菌	中等度萎縮	高度萎縮 ピロリ菌が胃に棲めなくなり退却
胃がん発生率	年率0%	年率0.1%	年率0.2%	年率0.25%

定期的に消化器検診を受けることをお勧めします。

胃内視鏡検査やピロリ菌の除菌をお勧めします。

消化器専門医の受診をお勧めします。

除菌費用は自己負担になる場合があります。

その場合、補助金申請をできることがありますのでお問い合わせください。

TEL 03-5614-6804

ボイスネット 1354-6804

【参考】 [http://www.jsnr.jp/index.php?page=medic\\_list](http://www.jsnr.jp/index.php?page=medic_list)

## ABC検診のメリット/デメリット

### メリット

血液検査でわかるので、検査を受ける方の負担が少ない。ピロリ菌に感染していた場合、除菌することにより、胃がんの発生を抑制することもできる

### デメリット

低リスクと診断されても完全に胃がんのリスクがなくなるわけではない

## ピロリ菌とは

主に幼少期に感染し胃の中に棲みついて胃炎を起こす細菌です。

胃炎を繰り返すことで胃粘膜を萎縮させ胃潰瘍、十二指腸潰瘍、胃がんの発生に強く関与します。

(感染しているからといって必ず胃潰瘍や胃がんが発生するわけではありません。)

ピロリ菌感染の有無は、ピロリ菌抗体価を測定することでわかります。

## ペプシノゲン法とは

ペプシノゲンは消化液の元になるもので、血中濃度を測ることで胃粘膜でのペプシノゲンの産生の程度がわかります。

血中ペプシノゲン量が少ない場合は胃粘膜が萎縮していることを示します。